

## 全小児科医を対象とした大規模調査：「小児科による自殺防止セーフティネット」 構築へ向けた課題整理と政策提言に関する研究

研究代表者：呉 宗憲（東京医科大学小児科・思春期科学分野・講師）

研究分担者：永光 信一郎（福岡大学医学部小児科・主任教授）

村上 佳津美（大阪総合保育大学児童保育学部・教授）

江島 伸興（久留米大学医学部小児科・客員教授）

瀨上 達夫（日本大学医学部小児科学分野・教授）

作田 亮一（獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター・教授）

大堀 彰子（帝塚山学院大学大学院人間科学研究科・教授）

石崎 優子（関西医科大学小児科・教授）

岡田 あゆみ（岡山大学学術研究院医歯薬学域・准教授）

山崎 知克（浜松市子どものこころの診療所・所長）

松島 礼子（清恵会病院小児科・部長）

東 佐保子（東こどもの心とからだのクリニック・院長）

田中 恭子（国立成育医療研究センターこころの診療部児童・思春期リエゾン診療科・部長）

大谷 良子（獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター・助教）

小林 穂高（名張市立病院小児科・副部長）

吉田 誠司（大阪医科薬科大学小児科・助教）

土生川 千珠（国立病院機構南和歌山医療センター臨床研究部・医長）

細木 瑞穂（細木小児科・副院長）

藤井 智香子（岡山大学病院小児心身医療科・助教）

芦谷 道子（滋賀大学教育学部・教授）

研究期間：令和 4 年 11 月～令和 7 年 3 月（3 年計画）

### 要旨：

本研究の最も大きな価値であり、最も大きなハードルは「小児科医全体を巻き込む」ことにある。それを実現するため、①アンケートの作成、②小児科学会・小児科医会との連携を行った。デジタル版プロトタイプを完成したのち、分担研修者らでプレテストを実施、並行して関連学会との調整を行い、条件付きではあるもののアンケート依頼のアナウンス体制が確約された。R7 年 2 月より、日本小児科学会、日本小児科医会でのアンケート調査を実施。同時に小児科学会分科会や小児科チェアパーソンなどの ML で繰り返しアナウンスを実施した。その結果、3 月末日までに 1587 件（日本の小児科医の約 1 割）の回答を回収できた。現在得られた結果（添付資料参照）について、詳細な統計解析を進めており、並行して論文ドラフトを作成中である。この成果は研究代表者が大会長を務める第 43 回日本小児心身医学会学術集会のシンポジウムで公表予定でもある。また小児科医のための対応マニュアルについても原稿は概ね完成しており（添付資料参照）、今後校正を行っていく予定である。

## **A Large-Scale Survey Targeting All Pediatricians: Research on Identifying Challenges and Providing Policy Recommendations for Constructing a ‘Safety Net to prevent Child and adolescent Suicide: SANCS’**

Principal Researcher:

1. Soken Go (Tokyo Medical University, Department of Pediatrics and Adolescent Medicine, Lecturer)

Co-Researcher Name:

2. Shinichiro Nagamitsu (Fukuoka University, Faculty of Medicine, Department of Pediatrics, Chief Professor)
3. Katsumi Murakami (Osaka Comprehensive Childcare University, Department of Childcare, Professor)
4. Nobuoki Eshima (Kurume University, Faculty of Medicine, Department of Pediatrics, Visiting Professor)
5. Tatsuo Fuchigami (Nihon University, Faculty of Medicine, Department of Pediatrics, Professor)
6. Ryoichi Sakuta (Dokkyo Medical University Saitama Medical Center, Center for Children's Mental Health, Professor)
7. Akiko Ohori (Tezukayama Gakuin University Graduate School of Human Sciences, Professor)
8. Yuko Ishizaki (Kansai Medical University, Department of Pediatrics, Professor)
9. Ayumi Okada (Okayama University, Academic Research Institute, Field of Medicine, Dentistry, and Pharmacy, Associate Professor)
10. Tomokatsu Yamazaki (Hamamatsu City Child Mental Clinic, Director)
11. Reiko Matsushima (Seikeikai Hospital, Department of Pediatrics, Division Chief)
12. Sahoko Azuma (Higashi Children's Mind and Body Clinic, Director)
13. Kyoko Tanaka (National Center for Child Health and Development, Department of Pediatric and Adolescent Liaison Psychiatry, Division Chief)
14. Ryoko Otani (Dokkyo Medical University Saitama Medical Center, Center for Children's Mental Health, Assistant Professor)
15. Hodaka Kobayashi (Nabari City Hospital, Department of Pediatrics, Deputy Division Chief)
16. Seiji Yoshida (Osaka Medical and Pharmaceutical University, Department of Pediatrics, Assistant Professor)
17. Chizu Habukawa (National Hospital Organization Minami Wakayama Medical Center, Clinical Research Department, Chief Physician)
18. Mizuho Hosogi (Hosogi Pediatrics, Deputy Director)
19. Chikako Fujii (Okayama University Hospital, Department of Psychosomatic Pediatrics, Assistant Professor)
20. Michiko Ashitani (Shiga University, Faculty of Education, Professor)

Research Period : November 1st, 2022 to March 31, 2025 (a 3 year plan)

**Summary:**

One of the greatest values—and simultaneously the most significant challenge—of this research lies in its aim to “engage the entire pediatric community.” To achieve this, we undertook (1) the development of a targeted survey and (2) coordination with the Japan Pediatric Society and the Japan Pediatric Association. Following the completion of a digital prototype of the survey, a pretest was conducted by collaborating investigators. In parallel, we engaged in negotiation with relevant academic societies, and ultimately secured conditional approval for announcing the survey request.

Starting in February 2025 (Reiwa 7), the survey was formally disseminated through the Japan Pediatric Society and the Japan Pediatric Association. Concurrently, we conducted repeated announcements via mailing lists of relevant pediatric subspecialty societies and department chairs. As a result, by the end of March, we successfully collected 1,587 responses—approximately 10% of pediatricians in Japan.

We are currently conducting detailed statistical analyses on the obtained data (see attached materials), and drafting a manuscript for publication. The results are scheduled to be presented at the symposium of the 43rd Annual Meeting of the Japanese Society of Psychosomatic Pediatrics, where the principal investigator will serve as the conference chair. Furthermore, a draft of the clinical response manual for pediatricians has been largely completed (see attached), and is now entering the proofreading phase.

## 1. 研究目的

本研究の目的は、すべての小児科医が、リスクグレード C (A～D) に対して「気づく＋TALK」を実施できたとしたら、小児・若者の自殺予防に有益であるという仮説に基づき、それを阻む臨床、実運用における障壁をアンケートにより明らかにし、介入効果の推定量を明らかにすることである。

## 2. 研究方法

初年度より、全小児科医にアプローチするための関連学会との協議・連携を図った。また並行して解析に耐えられる設計のアンケートをデジタルで作成した。完成したプロトタイプを試行運転し、問題点を改善し、全小児科医を対象にアンケート調査を実施した。得られた結果から、本研究の目的であるすべての小児科医が、リスクグレード C (A～D) に対して「気づく＋TALK」を実施できたとしたら、小児・若者の自殺予防に有益であるという仮説に基づく、それを阻む臨床・実運用における障壁を明らかにするために現在解析中である。

### 倫理面への配慮

本研究は患者情報を扱わず、倫理審査は不要であるとの旨を本学倫理審査委員会より得ているが、一方でアンケート回答者の心理的負担は懸念されたため、アンケートに含まれる内容をあらかじめ提示し、心理的負担を感じた際にはアンケートが途中であっても中止していいという配慮を冒頭で示した。

## 3. 研究結果

添付資料参照（論文執筆中のため公開不可）

## 4. 考察・結論

添付資料参照（論文執筆中のため公開不可）

## 5. 政策提案・提言

解析の後、論文にて公表予定

## 6. 成果外部への発表

### (1) 学会誌・雑誌等における論文一覧（国際誌 0 件、国内誌 3 件）

・【小児医療の中でこそみよう：こどもの心の診療】総論 小児総合診療の中での「こどもの心」（呉宗憲 東京医科大学 小児科・思春期科学分野）小児科診療(0386-9806)88 巻 2 号 Page139-143(2025.02)

・心身相関をベースとした子どもの心の診療連携における課題と提言(原著論文) 田中 恭子(日本小児心身医学会), 岡田 あゆみ, 長濱 輝代, 作田 亮一, 武内 治郎, 土生川 千珠, 石崎 優子, 小柳 憲司, 藤田 之彦, 淵上 達夫, 村上 佳津美, 山崎 知克, 芦谷 道子, 東 佐保子, 井口 敏之, 牛田 美幸, 大谷 良子, 大堀 彰子, 岡田 剛, 奥見 裕邦, 呉 宗憲, 小林 穂高, 桜井 優子, 識名 節子, 鈴木 雄一, 永井 章, 松島 礼子, 柳 卒 嘉時, 吉田 誠司, 永光 信一郎 日本小児科学会雑誌(0001-6543)128 巻 6 号 Page851-858(2024.06)

・小児科における心身症・神経発達症領域の保険診療の現状と課題(原著論文) 柳本 嘉時, 稲毛 英介, 長井 典子, 儘田 光和, 井上 久美子, 祝原 賢幸, 植松 悟子, 遠藤 明史, 大野 拓郎, 金井 雅代, 児玉 一男, 阪下 和美, 武田 充人, 野坂クナウプ 絵美里, 福原 里恵, 松田 正, 村上 潤, 森 伸生, 柳町 昌克, 大山 昇一, 奥村 秀定, 楠田 聡, 中林 洋介, 横谷 進, 藤井 由里, 岡田 剛, 渕上 達夫, 井口 敏之, 呉 宗憲, 北島 翼, 安藤 亜希, 大橋 圭, 米山 明, 森岡 一郎, 窪田 満, 石崎 優子, 日本小児科学会社会保険委員会 日本小児科学会雑誌(0001-6543)128 巻 3 号 Page543-551(2024.03)

**(2) 学会・シンポジウム等における口頭・ポスター発表** (国際学会等 0 件、国内学会等 3 件)

・第 42 回日本小児心身医学会学術集会 小児科による自殺防止セーフティネット構築へ向けた課題整理と政策提言に関する研究の経過報告 呉 宗憲 (東京医科大学 小児科・思春期科学分野), 村上 佳津美, 渕上 達夫, 作田 亮一, 大堀 彰子, 石崎 優子, 岡田 あゆみ, 山崎 知克, 松島 礼子, 東 佐保子, 田中 恭子, 大谷 良子, 小林 穂高, 吉田 誠司, 土生川 千珠, 細木 瑞穂, 藤井 智香子, 芦谷 道子, 永光 信一郎

・第 127 回日本小児科学会学術集会 総合シンポジウム Child Death Review and Prevention～乳児期から思春期まで～ 小児・思春期の自死の予防へ向けて 呉 宗憲 (東京医科大学 小児科・思春期科学分野)

・第 41 回日本小児心身医学会学術集会 小児科による自殺防止セーフティネット構築へ向けた課題整理と政策提言に関する研究 予備調査の結果報告 呉 宗憲 (東京医科大学 小児科・思春期科学分野), 村上 佳津美, 渕上 達夫, 作田 亮一, 大堀 彰子, 石崎 優子, 岡田 あゆみ, 山崎 知克, 松島 礼子, 東 佐保子, 田中 恭子, 大谷 良子, 小林 穂高, 吉田 誠司, 土生川 千珠, 細木 瑞穂, 藤井 智香子, 芦谷 道子, 永光 信一郎

**(3) その他外部発表等**

第 43 回日本小児心身医学会学術集会にてシンポジウム開催予定

**7. 引用文献・参考文献**

なし

**8. 特記事項**

**(1) 健康被害情報**

なし

**(2) 知的財産権の出願・登録の状況**

なし